

**2015年10月改訂(第4版)

*2008年9月改訂

制酸剤 緩下剤

日本薬局方

酸化マグネシウム (重質酸化マグネシウム「東海」) Magnesium Oxide

日本標準商品分類番号	
872344	
872355	
承認番号	(59AM)1011
薬価収載	1955年9月
販売開始	1958年6月
再評価結果	1982年1月

貯法：気密容器

使用期限：3年(表示の使用期限を参照すること)

**【組成・性状】

1. 組成

本品は1g中日本薬局方酸化マグネシウム(重質酸化マグネシウム)1gを含有する。

2. 性状

本品は白色の粒で、においはない。
本品は水、エタノール(95)又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。本品は希塩酸に溶ける。本品は空气中で湿気及び二酸化炭素を吸収する。

【効能・効果】

○下記疾患における制酸作用と症状の改善
胃・十二指腸潰瘍、胃炎(急・慢性胃炎、薬剤性胃炎を含む)、上部消化管機能異常(神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症を含む)

○便秘症

○尿路尿酸カルシウム結石の発生予防

【用法・用量】

○制酸剤として使用する場合：
酸化マグネシウムとして、通常成人1日0.5～1.0gを数回に分経口投与する。

○緩下剤として使用する場合：
酸化マグネシウムとして、通常成人1日2gを食前又は食後の3回に分経口投与するか、又は就寝前に1回投与する。

○尿路尿酸カルシウム結石の発生予防に使用する場合：
酸化マグネシウムとして、通常成人1日0.2～0.6gを多量の水とともに経口投与する。

なお、いずれの場合も年齢、症状により適宜増減する。

**【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1)腎障害のある患者
[高マグネシウム血症を起こすおそれがある。]
〔4.副作用(1)重大な副作用〕の項参照)
- (2)心機能障害のある患者
[徐脈を起こし、症状が悪化するおそれがある。]
- (3)下痢のある患者
[症状が悪化するおそれがある。]
- (4)高マグネシウム血症の患者
[症状が悪化するおそれがある。]
- (5)高齢者〔5.高齢者への投与〕の項参照)

2. 重要な基本的注意

本剤の投与により、高マグネシウム血症があらわれることがある。特に、便秘症の患者では、腎機能が正常な場合や通常用量以下の投与であっても、重篤な転帰をたどる例が報告されているので、以下の点に留意すること。〔4.副作用(1)重大な副作用〕の項参照)
(1)必要最小限の使用にとどめること。
(2)長期投与又は高齢者へ投与する場合には定期的に血清マグネシウム濃度を測定するなど特に注意すること。
(3)嘔吐、徐脈、筋力低下、傾眠等の症状があらわれた場合には、服用を中止し、直ちに受診するよう患者に指導すること。

3. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

本剤は吸着作用、制酸作用等を有しているため、他の薬剤の吸収・排泄に影響を与えることがある。

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
テトラサイクリン系抗生物質 ・テトラサイクリン ・ミノサイクリン等 ニューキノロン系抗菌剤 ・シプロフロキサシン ・トスフロキサシン等 ビスホスホン酸塩系骨代謝改善剤 ・エチドロン酸ナトリウム ・リセドロン酸ナトリウム等	これらの薬剤の吸収が低下し、効果が減弱するおそれがあるので、同時に服用させないなど注意すること。	マグネシウムと難溶性のキレートを形成し、薬剤の吸収が阻害される。
セフジニル セフボキシムプロクセチル ミコフェノール酸モフェチル デラビルジン ザルシタピン ペニシラミン		機序不明
アジスロマイシン セレコキシブ ロスバスタチン ラベプラゾール ガバペンチン	これらの薬剤の血中濃度が低下するおそれがある。	
ジギタリス製剤 ・ジゴキシン ・ジギトキシン等 鉄剤 フェキソフェナジン	これらの薬剤の吸収・排泄に影響を与えることがあるので、服用間隔をあげるなど注意すること。	マグネシウムの吸着作用または消化管内・体液のpH上昇によると考えられる。
ポリカルボフィルカルシウム	ポリカルボフィルカルシウムの作用が減弱するおそれがある。	ポリカルボフィルカルシウムは酸性条件下でカルシウムが脱離して薬効を発揮するが、本剤の胃内pH上昇作用によりカルシウムの脱離が抑制される。
高カリウム血症改善イオン交換樹脂製剤 ・ポリスチレンスルホン酸カルシウム ・ポリスチレンスルホン酸ナトリウム	これらの薬剤の効果が減弱するおそれがある。また、併用によりアルカローシスがあらわれたとの報告がある。	マグネシウムがこれらの薬剤の陽イオンと交換するためと考えられる。

